

寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の“いま”を伝える情報誌

vol.16

クローズアップ

あふれるエネルギーと空間の広がり
世界から絶賛を浴びる新境地の仏画

慧善 玄潭

インタビュー

商工会と寺社との連携により
地域のブランド力を強化

全国商工会連合会 専務理事

乾 敏一

巻頭インタビュー

地域の伝統文化を守り
コミュニティの中心にあるべき
神社の使命を果たすために

佐野 巖

神道青年全国協議会 会長 富岡八幡宮 禰宜



マンション



商業施設



賃貸住宅
「シャーメゾン」



積水ハウスの 土地活用

オフィス



高齢者向け
住宅



クリニック



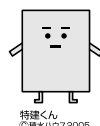
土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャーメゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。



積水ハウス株式会社 大阪特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F



特建くん
©積水ハウス2005

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。



0120-131-470

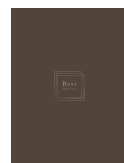
大阪特建支店

検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。



積水ハウスの賃貸住宅
「シャーメゾン」総合カタログ



積水ハウス大阪特建支店 実例集
「Best Solutions」

巻頭インタビュー

02 地域の伝統文化を守り
コミュニティの中心にあるべき
神社の使命を果たすために

神道青年全国協議会 会長 富岡八幡宮 禰宜

佐野 巖



10 インタビュー
商工会と寺社との連携により
地域のブランド力を強化

全国商工会連合会 専務理事

乾 敏一

16 クローズアップ
あふれるエネルギーと空間の拡がり
世界から絶賛を浴びる新境地の仏画

慧善 玄潭

06 特集1
寺社における道路標識・看板広告の
効果的な設置方法とは

14 特集2
神社を人の集まる場所に
世代を超えて人々が集う学びの場
浅草神社「社子屋」と
道明寺天満宮「宮子屋」の試み

18
トレンド Now
和紙に刷られた愛らしいイラストが人気！
手刷りのコバコ（小箱）

19 活性人
仏教が世界へ打って出る
今が機会かも知れません
「週刊仏教タイムス」編集長 工藤信人

20 TOPICS
増加する海外からの旅行者を
スムーズに受け入れていくために
東京海上日動火災保険株式会社

22 Opportunity
自分と向き合う『暗闇ごはん』
緑泉寺住職 青江覚峰

24
寺社にお役立ち環境改善技術

26 うちのお宝
光明寺 麻布著色盂蘭盆曼荼羅
住吉神社 能舞台

28 野田博明 風まかせ16
糺の森にひそむ三柱鳥居の謎

30 PICK UP
寺社観光の新しい楽しみ方を提案する
ガイドブックが人気です
「京都寺社案内。」「東海の寺社」

地域の伝統文化を守り
コミュニティの中心にあるべき
神社の使命を果たすために



神道青年全国協議会 会長
富岡八幡宮 禰宜

佐野 巖

プロフィール まの いわお 佐野 巖

1977(昭和52)年11月、神奈川県生まれ。1999(平成11)年富岡八幡宮権禰宜。國學院大學神道学専攻科卒。2002(平成14)年から3年間伊勢神宮で奉職。2005(平成17)年富岡八幡宮禰宜。2017(平成29)年4月より神道青年全国協議会会長



北海道根室市「金刀比羅神社」

1949（昭和24）年。終戦後、未だ混乱の渦中にあった日本。「敗戦」という日本人のアイデンティティにも多大なる影響を与えた出来事に、民族精神の復活・国家再興の祈りを込めて結成された「神道青年全国協議会」。2019（平成31）年に創立70周年を迎える神道青年全国協議会について、本年度から新たに会長の任に就かれた佐野巖（いづの）会長にお話を伺いました。

青年神職の基礎的な素地の醸成 地域の祭礼を司る 神職としての見識を広げる

編集部 神道青年全国協議会の趣旨を教えてください。

佐野会長 当会は、40歳以下の青年神職を中心に組織された若手神職の集いです。47都道府県それぞれに青年会（単位会）を置き、現在3428名〔2017（平成29）年4月1日〕が所属しています。

会員には、奉職して間もない者から、すでに宮司として祭礼に携わる者などさまざまですが、神職に求められる素地の醸成や、地域の祭礼を司る神職として、より実践的な教化活動を行うための研修や情報共有などを行っています。

若手ならではの アイディアとフットワークで 日本の伝統文化を未来へ繋げる

編集部 貴会が行われている研修や活動の特長はどのようなものでしょうか。

佐野会長 当会では、発足時より「皇室の尊厳護持」と「伊勢神宮の啓発活動」を活動の大きな柱としております。神職として奉仕するためには、各地域の神社・祭礼はもとより神道への深い知識が必要となりますが、青年神職には、まだまだそれらが足りない場合がございます。もちろん、神社本庁の各種研修などで、神職としての基礎的な知識を得ることはできますが、神道青年全国協議会では「ブラアルファ」として、各地域の神社・祭礼のあり方のほか、地域の方々とコミュニケーションをとる際に必要なこまかな知識の確認・情報共有なども行います。その内容は、全国の神社の本宗でもある伊勢神宮のことから、一般の方々へ家庭での御礼のお祈りの仕方、正しい参拝方法などを、どのように教化するかなど、多岐にわたります。さまざまな分野の講師をお招きして講演いただいております。

また、若手ならではのフットワークをいかして、大規模災害時の支援や領土領海問題に対する時局に即した活動なども行っているのも特長です。

戦後の混乱期

国家再興・民族精神の復活を
願い立ち上がった青年神職たち

編集部 そもそも貴会が発足された経緯を教えてください。

佐野会長 神道青年全国協議会が発足された1949（昭和24）年。未だ終戦の混乱のなかにあった時代でした。実は昭和1949（昭和24）年というのは本来、第59回の神宮式年遷宮の年です。しかし、未曾有の国難にあつて式年遷宮は無期限延期となってしまいました。ただ、



島根県隠岐の島町「竹島之碑」



沖縄県波照間島「聖寿奉祝の碑」

式年遷宮と同じく20年毎に架け替えられてきた内宮の宇治橋だけは、篤志崇敬者の力によって1949（昭和24）年に架け替えられました。こういった流れの中で、全国の青年神職が集い、国家再興・日本人の民族精神の復活を旨に発足したのが当会です。

神宮式年遷宮にあわせて 新たな企画を立案

編集部 この70年近くの間、日本の社会構造や生活様式、そして日本人それぞれ意識も大きく変わりました。その中において、貴会の役割や活動は変わってきているのでしょうか。

佐野会長 神社そのものの使命は、国家と地域の平安を祈り祭祀を修めることなので、その根本は変わっていません。しかし、発足当初は国家再興・日本人の民族精神の復活を旨に活動を行っていた当会も、近年では、神道そのものを一般の方々はどう理解していただくか、日本の伝統文化・地域の伝統文化をどう未来へつなげていくかが議題にあがります。神社本庁でも、神宮大麻の頒布の減体を課題としており、神道青年全国協議会では、伊勢神宮のことを広く周知する活動を展開してきました。

2005（平成17）年から2013（平成25）年に行われた第62回神宮式年遷宮の際には、「神宮式年遷宮の“ところ”

を守り伝える委員会」を発足し、さまざまな啓発活動を実施しました。たとえば、伊勢の旧街道を若手神職が伝統的な装いで歩く広報活動、日本郵政様のご協力のもと実現した式年遷宮の記念切手の発行、そして、全国神社に奉職されている巫女の方々に伊勢神宮にお招きして、研修などを行いました。巫女は、各神社において参詣者との窓口の役割も果たしております。巫女に伊勢神宮をより深く理解していただくことで、参詣者とコミュニケーションをとったときに少しでも伊勢神宮を身近に感じていただけるようにと考えました。

また、最近では、次期神宮式年遷宮に向けて、神宮奉賛・参宮促進を20年に一度の二過性のブームにしない為に、「神宮啓発委員会」を発足しました。委員会の中心は、20代後半から30代前半の全国の若手神職10名と、伊勢神宮の若手神職2名。まだ事業については企画立案の段階ですが、新たな一歩を踏み出したところです。

神職の高齢化 氏子の過疎化を前に 地域の枠を飛び出す若手の力

編集部 会長に就任され、今後、貴会で積極的に取り組みたい課題を教えてください。

佐野会長 これは神道青年全国協議会

だけではなく、神社界が抱える問題ですが、全国各地で過疎化・高齢化が進む中、斯界においても例に漏れず深刻です。現在、全国には8万社あまりの神社がある一方、神職の人数は2万人を切っています。そのため、1人の神職がいくつもの神社の宮司を務めることも多く、なかには30〜40社を兼務する方もおられます。もしその方が奉職から離れた場合、すでに何



島根県隠岐の島町「水若酢神社」



伊勢神宮での巫女研修の様子

社も兼務している近隣の神職がさらに神社を兼務することになります。そうなる、祭りをはじめとした地域の伝統文化が損なわれてしまう可能性は否定できません。そこで、神道青年全国協議会では、若手ならではのフットワークの軽さを活かして、地域コミュニティの枠を超えたフォロー体制を構築できないかと考えております。

神職同士の横のつながりと コミュニティとの強い連携で 各地域の活性化を目指す

編集部 地方の人口減少・過疎化が進む中、地域コミュニティが薄れていることも問題にあります。現代において神職に求められていることは何だとお考えでしょうか。

佐野会長 かつて、地域の祭礼を司る神社は地域コミュニティの中心でした。神主も、今のように専業ではありません、農村であれば名主、漁村であれば網元など地域の「顔」となる人物が本業の傍ら兼務していたことも多いと推察されます。そのため、神主自身もまた地域の中に身を置き、時代時代にあった形で柔軟に地域の伝統文化を守る必要があります。



神道青年全国協議会
<http://www.shinseikyo.net/>

現在、神道青年全国協議会に所属する青年神職のなかには地域のコミュニティに積極的に関わる活動を行っている者も少なくありません。たとえば、消防団やPTAの役員、青年会議所の会員、なかには地方議員として地域に貢献している者もおります。地域の方々との結束を固めることで、地域の伝統文化は真の意味で継承されていくと考えています。また、各地域に伝わる「お祭り」は、ただの季節ごとのイベントではなく、故郷の原風景であり、未来へと継承されるべき日本の伝統文化です。それは、都心に集ましがちな人口を地方へと呼び戻す「要」でもあります。

神道は、各地域の神社の中心に天照大御神を祀る伊勢神宮があるという考え方をします。そこに上下関係や優劣はなく、各地域の神社がそれぞれの役割を継承し続けることで成り立つ「調和」の考え方があります。そして、地方が活性化することは、神道が祈りを捧げる「国家

の安寧」につながると考えています。そのため、神道青年全国協議会は、神職同士の横のつながりはもちろん、地域コミュニティとの強固な連携をもつためのきっかけとしてさまざまな活動を発信していきたいと考えています。

編集部 最後に、ひとりでも多くの方に寺社へ足を運んでいただくために活動している、全国寺社観光協会に期待されていることがございましたらお聞かせください。

佐野会長 仏教とか神道とか分けず、さまざまな立場の伝統文化継承を担う方が参加するような、研修会や講演会、セミナーなどがあれば興味がありますので、ぜひ企画運営をしていただきたいですね。



富岡八幡宮

〒236-0051
横浜市金沢区富岡東4-5-41
TEL : 045-776-3838
<http://www.tomioka80000goo.org/>

寺社における道路標識・看板広告の 効果的な設置方法とは

近年のインバウンドの拡大にともない、多くの観光客・参拝者が寺社を訪れるようになってきました。

大型バスでの移動も多く、その際、道路標識や看板（種の広告）は観光誘致または認知度を上げるための大切なツールになります。

道路標識に掲出するにはどのような手続きが必要か、また道路へ看板を出すにはどのような手段があるのか、

官公庁や病院関係など公共施設の屋外広告を多数手掛けている株式会社日本道路案内標識と、

国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所にお話を聞いてみました。

道路標識への記載は 官公庁への相談から

近年、スマートフォンが普及し、地図情報サービスが発達した中でも道路標識の必要性は高まっていると言える。高齢者や遠方からの来訪者、海外旅行者にとって道路標識というの必要性があり、現地に着いたことを確実に知るといふ安心感があることは間違いない。では、公共の道路標識に寺社の名前を入れることができるのかどうか。その可能性について、屋外看板のプロに

聞いてみた。訪れたのは愛知県にある株式会社日本道路案内標識。主に官公庁や病院関係など公共施設の屋外広告をメインに手掛けており、クライアントには寺社も数多い。この会社の営業本部長として活躍するのが森田伸男さんだ。「愛知県の知多半島には知多四国八十八ヶ所霊場巡りというものがあるので、そこをめぐってお遍路さんに対してお寺さんの道案内を建てたい道路から奥まった所にあるので、お遍路さんにもすぐ分かる

道路標識と看板広告 その違いについて

道路標識とは、道路法、道路交通法、道路構造令に基づいて、都道府県の公安委員会、道路管理者である国土交通省や自治体などが設置するもの。主な目的は“交通の安全と円滑化を図る”ためである。対して看板広告は公共の土地以外に個人や法人が“宣伝”を目的として出されるもの。つまり基本的に目的が異なる。道路標識に有名施設が掲示されるのも、基本的には円滑な交通を促すためだ。道路標識に寺社を掲載することが可能かどうかを検討する際には、まずこの違いを理解しておく必要がある。

ように、ということですが」

まず知りたいのは、公共の道路標識について。ここに寺社の名前を組み入れてもらうためにはどのような手順が必要なのか。公共の道路標識の管轄は、国道なら国土交通省、県道なら各県の土木課、市道は市の土木課が管轄となる。「まずは標識のある、または標識を出したい道を管轄している官公庁に相談に行くこととなります。もし官公庁からのOKが出たら、弊社は道路標識の素材やデザインなどの基本仕様についてのノウハウを持っているので、制作施行を請け負うことができます。弊社の方で行政に届け出を出しながら仕上げることとなります」

道路標識への記載は 公共施設かどうか

しかし問題は、その官公庁がOKを出すかどうかということ。基本的には、公共施設が非常に知名度のある施設でなければ公共の道路標識に名前を入れることはできない。よって官公庁が共に近いと認めた施設はすでに標識に入っているはずとされる。「あらためてこちらから相談をし

ても、新たに道路標識として示してもらおう許可を得るのは非常に難しいでしょう。その判断基準は自治体によっても異なります

ので確実なことは申し上げられませんが、例えば大学付属の病院の場合、1次指定、2次指定の救急医療体制をとっていたり、ドクターヘリ発着場を持っていたりすると、たとえ私立であっても公共の施設と判断されます。また、地域ぐるみでこの施設を道路標識に入れるべきだ」ということになれば追加される可能性もあります。国道、県道、市道のどれによっても違います。この官公庁への相談において、冒頭に記した道路標識と看板広告の違いがポイントになってくる。道路標識の場合は、該当する寺社を記載することで、交通の安全と円滑を図る、ことができるかどうかが主な判断基準となるのだ。ともかく官公庁に相談することからスタートすることとなるが、屋外広告の会社であれば代行してくれることも多い。

自前の看板を出すにも 各種条例の遵守が必要

もし官公庁に相談しても、公



寺社の看板広告例。いずれもシンプルなデザインで公共の道路標識に似せている





株式会社日本道路案内標識営業本部長の森田伸男さん

共の道路標識に施設名を入れることができなかったとすれば、自前で看板を出すしかない。もちろん設置場所は道路ではなく、道路に面した私有地となる。しかし自前の看板においても自由に作れるわけではない。基本的に全国に屋外広告物条例というものがあり、たとえ自前の看板であってもこれに従う必要があるうえ、各自治体によって追加の規制もある。「基本的には通行者の邪魔になつたり、危害を加えたりする可能性のあるものは不可。さらに景観を損ねるようなものも許可されない可能性が高いです。看板の高さや平米数、色などの指定があるので、例えば京都や飛騨高山など自治体で景観の維持に努めているところは、コンビニやファストフード店であっても派手な色が使えない」といふことになっています」

ではどのような看板であればそれらの条例をクリアしやすいのだろうか。「結論からいえば、非常にシンプルなもの、公共の道路標識に似ているデザインのもの、ということになるでしょう」。看板を出す寺社としても公共の道路標識に似ているものの方が、公共の施設に近い見せ方をすることができて好都合だ。

看板を出すための費用 初期投資なしの場合も

ではその費用の方はどうなるのだろうか。道路脇に一般的な道案内を出した場合で聞いてみる。「弊社の場合は、看板屋というより広告媒体という立ち位置になります。よって、看板の制作、設置については弊社が負担します。つまり初期費用というものはなく、その看板への掲載料として3年契約の掲載料を月々1万5千円から2万円前後でいただいています。もしその間に台風などで看板が倒れて通行人にケガをさせるようなことがあれば、もちろん弊社の責任において賠償することとなります。また3年間雨ざらしになるため、年1回はクリーニングします。



「かぼちゃ寺」として看板を出している愛知県の妙善寺さんと、「ガン封じ寺」として出している無量寺さん



さらに3年間で1回のデザイン変更も無料で行います」

看板に使う素材も公共とほぼ同じもので亜鉛メッキ仕上げ。サビに強く耐久年数は10年以上とのことだ。この月々1万5千円から2万円前後という費用の内訳としては基本的に制作施工費、地主さんに対する土地借地料、行政に対する申請費用、3年間の維持管理費ということらしい。これらをパッケージとして月額で払うシステムだ。つまり看板を立てた後のメンテナンスや行政への申請報告なども一切おまかせということだ。単純に造作物を1回作って終わり、ということも可能だが、その場合、形や大きさによって違うが一般的には50万円前後とのこと。もちろんメンテナンスや行政への申請などは自ら行う必要がある。

徒歩での道案内なら電柱広告を使う手も

電柱広告という手法もある。電柱と電柱の間はおおよそ30m。つまり30mごとに行先を示すことができることから、道案内という意味では有効な手段だ。「電柱広告の場合は1本あたり月額

2000〜2500円前後で地域によって異なります。やはり人口の多いエリアでは高くなりやすいね。道案内として利用するには優れているうえに、費用もそこそこ安いのが特徴です。もちろん道案内ですから1本だけでなくルートの長さに応じて複数本出す必要があります。車より徒歩の方への道案内として使われることが多いですね」

看板を出す目的とは住民への認知の役割も

こういった看板を出す場合、考えておくべきことがある。目的は何か、ということだ。道案内の看板には、それ以外にも別の効果がある。地域との距離が離れがちな神社にとって、この町にある神社・寺といえはこという、住民からの認知度を維持することは重要だ。道路に面していない山寺などはなおさらだ。

また、周辺への違法駐車を避けるため、確実に駐車場へと導くことも必要。これらの目的によって、看板の立てる場所、立て方、デザインなどが変わってくる。「例えば道案内が目的であれば、交通量センサスや人口分布など

で周辺の道路事情などを精査したうえで立てる場所を決めます。しかし目的が『地域の若い方も存在を知ってもらいたい』『どいういった神社なのかを知ってもらいたい』ということであれば立て方や内容は違ってきます。正式名称ではなく愛称で看板を出すこともできます。例えば愛知県の妙善寺さんは、かぼちゃ伝来の地といわれることから『かぼちゃ寺』として看板を出していますし、同じく愛知県の無量寺は『ガン封じ寺』という表記にしています。海外旅行者へはやはりローマ字や中国語の併記などの対策をとる必要もある。結果としていえるのは、目的を明確化させようとして、専門会社と相談し、地域の条例と照らし合わせながらどのような看板にすべきかを決めていく、ということになる。

表示は適正化委員会が決定 観光立国として表示改善も

国土交通省として、道路標識に関する考え方はどのようなものだろう。国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所に聞いた。道路標識は『道路標識設置基準』に基づいて設置。設置の手順は、都道府県の公安委員会と連携して、各都道府県にある道路標識適正化委員会が決定される。新たな地点を表示する場合は、地域全体の声が自治体に届き、それが適正化委員会の議題とされることで調整されるという形が一般的だそう。つまり、表示の必要性について地域住民からの声が高まり、それを自治体が道路管理者に伝え、設置の必要性がある案件について適正化委員会に図られる。

ただ、現在国土交通省では観光先進国や地方創生の実現に向けて、交差点名標識に著名な観光地、名所・旧跡、文化施設などが表示されるよう標識の改善が推進されている。例えば和歌山県橋本市では『中島』という交差点名標識が『隅田八幡神社入口』に変更された。同じく和歌山県海南市では『藤白南』が『藤白神社入口』となった。同じ理由で英語表記への見直しも各所で図られている。もちろんこれも、適正化委員会が判断されるものということに、今後は今更と違はないが、今後新たに神社仏閣が交差点標識に表示される可能性はあるといえよう。

取材協力

株式会社日本道路案内標識

本社：〒442-0857

愛知県豊川市八幡町足洗20

TEL：0533-838-0028

http://www.jfs.co.jp/

取材協力

国土交通省近畿地方整備局

大阪国道事務所

http://www.kkrnli.go.jp/osaka/

商工会と寺社との連携により 地域のブランド力を強化

全国商工会連合会 専務理事 乾 敏一

インタビュー

地域経済を担う商工会では、2014（平成26）年から観光への取り組みを強化しています。商工会の寺社観光に対する考え方と具体的な取り組みについて、全国商工会連合会の乾敏一専務理事に話を伺いました。

—まず、商工会の役割と活動内容について教えてください。

乾専務理事 商工会は、1960（昭和35）年、商工会法に基づいて設立された地域の経済団体です。商工会議所が大都市部を中心に活動しているのに対して、商工会は、大都市部を除く地域の市町村単位で活動しています。現在、商工会の会員数は全国で100万人。その9割を占めるのが、小規模企業や個人事業主です。こうした会員に対して、商工会では確定申告の際の記帳指導をはじめ、さまざまなサービスを行ってきました。

最近、とくに増えているのが「地域振興」の活動です。市町

村からイベントの主催やトータルプロデュースを依頼されることも多く、地域の祭りを復活させたり、婚活パーティーや商店街での結婚式を主催したりといった機会も増えています。今では商工会の活動の半分以上が地域振興の仕事、といっても過言ではありません。

—全国商工会連合会は、どのような役割を担っているのですか。

乾専務理事 商工会の活動は基本的に都道府県単位で行われており、都道府県の商工会連合会が、地域の行政や経済団体、観光協会などと連絡を取りながら活動しています。一方、全国商工会連合会では、各地の商工会連合会の意見を集約して国に伝えたり、国の決定を各都道府県に伝達して対応を求めたり、といった活動をしています。働き方改革や観光政策、中小企業政策など、商工会に関わる国の政策を分類し、各都道府県の事情に応じていかに政策を活用するかを考えるのが、我々の仕事。全国商工会連合会はいわば「情報の結節点」であり、商工会の効率的な運営をお手伝いするアドバイザーとしての役割を担っています。

文化的価値を維持するには定常収入を得る仕組みが必要

—今、商工会では、どのような分野に注力しているのでしょうか。

乾専務理事 たとえば地域振興の一環として、地域の産品を大都市の消費マーケットに売り込むためのルート作りや、販売指導などのお手伝いをしています。とはいえ、近年は内需縮小で競争が激化。ネット通販が普及したこともあって、物品販売にや限界が見えてきました。そこで、新たに力を入れているのが観光振興への取り組みです。

今、政府は観光振興を国策に掲げ、訪日観光客数も2020年に4000万人、2025年には6000万人という野心的な目標を掲げています。一方で、爆買いブームは一段落し、外国人観光客の関心は、団体旅行やモノ消費の段階から、個人旅行やコト消費へと移行しつつあります。日本の文化や歴史に関心を持つ外国人観光客が増え、日本観光は、一部の大消費地だけが潤う第1ステージから、地方全体に伝播していく第2ステージへと移りつつある。今こそ、祭りや地域に埋もれた観光資源



全国商工会連合会設立55周年を迎えた昨年に発行された『商工会のご案内』



プロフィール いぬい としかず
乾 敏一

1954(昭和29)年、大阪府生まれ。1978(昭和53)年、通商産業省(現経済産業省)入省。外務省欧州連合日本政府代表部参事官、経済産業省地域経済産業政策課長、東京都産業政策部長、衆議院経済産業委員会専門員等を経て、2015(平成27)年10月より現職。

をもっと発掘するべきだ、多様な観光ニーズに応じて豊富なメニューを提供できる体制を整え、海外に発信していこう—そんな意識が、商工会の中でも共有されつつあります。

—今、日本では観光立国の一環として、寺社観光の推進が国家的な課題となっています。そんな中、地域振興において豊富なノウハウと実績を持つ商工会の役割は、非常に大きいと感じます。

乾専務理事 先日、「宗像・沖ノ

島と関連遺産群」が世界遺産に一括登録されました。もしイコモスの勧告通り、人が足を踏み入れることのできない沖ノ島周辺だけが登録されていたら、経済価値を生むことはなかったでしょう。もちろん、聖地の持つスピリチュアリティを大切にし、世界に伝えていくことは重要です。しかし、それだけではサステナビリティ(持続可能性)を実現することはできない。(聖地を)存続させるには費用もかさみますから、皆がリスベクトする仕掛けを継続的に作っていかなければ、いず

れは忘れ去られてしまう。そうなれば、本来の価値を普及・伝播できないわけですから、これは非常に重要な問題です。

サステナビリティを実現するためには、経済的な定常収入を得る仕組み、もしくは公費で補てんする仕組みが必要です。その仕組みができれば、文化的価値や宗教的意義を維持しながら、将来にバトンタッチすることができるようになる。こうした分野は我々の得意とするところですから、商工会が経済面を担い、より多くの方に来ていただけるような



奥浜名湖と田園空間



奈良盆地の南西・桜井市の遠景

環境づくりをお手伝いすることによって、寺社観光にも少なからず貢献できるのではないかと思います。

物語性を重視して 観光ルートと商品を パッケージ化

— 具体的な事例をご紹介いただけますか。

乾専務理事 最近では地域間競争が激化しており、通り一遍の特産品を売り込むだけでは、なかなか消費者に受け入れてもらえない。こうした自己反省のもと、商工会では2014(平成26)年から、全国展開事業の一環として新しい取り組みを始めています。そのひとつとして、地域のお寺や神社を核にして、共通のコンセプトとストーリー性にもとづいた連続の観光ルートを作り、寺社の持つ意味合いを体現した土産品も新たに開発してパッケージ化するというものも挙げる事ができます。

その二つの例が、地元の商工会が行政と連携して行った、奈良県の斑鳩町での取り組みです。法隆寺や中宮寺、吉田寺などがある斑鳩の里は、仏教伝来の地であり、日本史のルーツの一つで

もあります。その歴史に焦点を当てて商品開発をし、「どのようなルートで回れば、外国人に斑鳩の里のストーリーや文化を理解してもらえるのか」という観点から、最適化した観光ルートを練り上げました。我々も資金の一部も負担させていただきましたが、昨年で一段落し、今年からは地元の独自事業として継続する予定です。

二つ目は、奈良県桜井市での取り組みです。これは2016(平成28)年度から始まったもので、大神神社や相撲神社の協力のもと、県の支援も得て、観光ルートと関連商品を作る取り組みが進められています。既存の観光資源を立体的かつ有機的につなぎ合わせて、短期間で効率的に回れるルートを整備し、地域の伝統文化を理解してもらうための「入門編」を作っているところでは、

三つ目は、NHK大河ドラマですっかり有名になった、奥浜名湖での取り組みです。浜名湖の内陸側は、もともと史跡も多く、観光資源や特産品に恵まれた土地柄です。湖や山、夕日の美しさ、神社仏閣など、ありとあらゆる観光資源を有機的につなげることで、その魅力を多くの人に伝えることができると考

えています。

このように、商工会では数年前から、寺社観光に関わる取り組みを続けてきました。地域毎に寺社と商工会が連携すれば、新たな地域振興の可能性を切り拓くことができる、そんな思いを強くしています。

— 日本の伝統的価値を担う寺社と、経済分野に精通した商工会がタッグを組めば、可能性も大きく広がりますね。

乾専務理事 互いに役割は違えど、寺社観光によって地域を活性化できれば、それが地方創生につながる。そのことについて、皆が共通認識を持つことが大切です。その意味で、キーパーソンとなるのは、市町村や県などの地方自治体です。行政がリードして、関係者が意識を共有できるような環境さえ作っていただければ、商工会もできる限りお手伝いしますし、経験とノウハウを生かして期待にお応えできると思っています。

一方で、お寺さんや神社さんにも、「地域全体が同じ船に乗った運命共同体なのだ」という意識をお持ちいただけるとありがたいですね。訪日外国人が不便と



全国商工会連合会が運営する
アンテナショップ「むらからまちから館」
(東京・有楽町交通会館1階)



寺社観光に取り組むプロセス自体が 地域の価値の再発見につながる

寺社観光はこれからの地域創生の王道で あるといっても過言ではありません

感じていることは、実務を少し変えるだけで解消できます。たとえば、海外ではカード決済が普及しているため、現金はあまり持ち歩かないのが普通です。ところが、日本の寺社は現金決済が中心で、両替商も少ないので、「ドル札しかないと言ったら、拝観できませんと言われた」ということが往々にして起こります。行政が司令塔となってインフラを整備し、地域の関係者が一堂に会して協力する体制を作っていたら、課題の解決もスムーズに進むのではないのでしょうか。

商工会のノウハウをフル活用し寺社活性化のお役に立ちたい

—今後、商工会と寺社が協力することによって、どのような相乗効果が生まれるとお考えでしょうか。

乾専務理事 やはり、「観光パッケージ」という総合的な価値を、新たに創出できるという点ですね。今までの日本は、ものの売買がもたらす経済効果だけに注目し、もっぱら売上高や観光客数を観光政策の指標にしています。しかし、多様な商品やサービ

スが生まれることで、地域の価値とブランド力が高まれば、地域の方々にとっても「子々孫々に至るまで、ここに住み続けよう」と思えるきっかけになるのではないかと。

今は東京一極集中が進み、東京の大学に進学した若い人たちが、卒業しても地元に戻らない傾向が強まっています。超高齢化が進んで、「人口ゼロ」の地域が続出し、「このままでは、明るい日本の未来像を描けない」という危機感もある。そうならないうためにも、地域に埋もれた資源を発掘し、それを現代風に再編して、地域の持つ付加価値を世に知らしめることが大切です。その代表的なものが、各地の神社仏閣ではないでしょうか。寺社観光に取り組むプロセス自体が、地域の価値の再発見につながる。その意味では、寺社観光とはこれからの地方創生の王道である、といってもいいかもしれません。

—今後、商工会としては、全日本寺社観光連盟とどのような協力関係を結んでいくお考えですか。

乾専務理事 今後の具体的な協力を継続的に拡大していくためにも、まずは実績を積み上げ

ていくことが大切です。今、国の支援措置として地方創生交付金がありますが、今後はハードだけではなく、「観光」というソフトも交付金の対象にしていきたい。そして、できるだけ早く具体的な成果を上げていきたいと考えています。今、全日本寺社観光連盟が進めている仙台空港周辺の寺社観光ルート作りの検討委員会にも、宮城県岩沼商工会の会長がメンバーとして参画しています。今後もしこうした形でお手伝いできれば、大変意義深いですね。

また、(連盟の下部組織である)全国寺社観光協会とも意見交換しながら、政府に共同で施策要望を出したり、各地の寺社のイベントに我々も参画させていただいたり、さまざまな形で連携していきたい。機会があれば、我々も大いにバックアップさせていただきます。

—ありがとうございました。

— インタビュー・構成 / 吉田耀子

全国商工会連合会 (CFSCIJ)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館19階

TEL.03-6268-0088

<http://www.shokokai.or.jp/>

神社を人の集まる場所に 世代を超えて 人々が集う学びの場



神社を学びの場として地域に開放する
浅草神社「社子屋」と
道明寺天満宮「宮子屋」の試み

東日本

浅草神社

「社子屋」

伝統文化の継承と
世代交流を図る

浅草寺本堂の東側に鎮座する浅草神社では、1月を除く毎月1日に、社務所を学びの場として一般に開放する「社子屋」が開催されている。2012（平成24）年8月にスタート。子どもから大人まで幅広い年代の参加者が集い、神社や神道をはじめ日本の伝統文化について知識を深めている。

「日本の古き良き文化や風習を広く学べる場であるとともに、大人と子どもとの関係性や地域のつながりが希薄になってきている現代において、世代交流の場でありたいと考えています」と語るのは、浅草神社の矢野幸士禰宜。「社子屋」を始めたきっかけは、「人が集まる場所」という神社本来の機能を取り戻したいという想いからだったという。

毎年5月「三社祭」は3日間で約200万人もの人出で賑わいを見せる。しかし、矢野禰宜が23年前に浅草神社に奉職した当初、参拝に訪れる人は少なく、



社子屋の藍染教室の様子

特に平日の境内は閑散としていたという。「神社の本質として、三社祭や初詣に限らず、日常的に足を運んでもらえるような神社にならなければいけないと考えたのです」

「社子屋」の名前の由来

まずは子どもたちに神社に来てもらおうと、神社での宿泊体験学習や、七夕飾り制作教室などさまざまなプログラムを実施。さらに、川柳教室や巫女舞教室などを開催する中、世代を超えて学べる場としてスタートしたのが「社子屋」だ。その名前の由来については「昔からお寺には寺子屋という子どもたちが集まって勉強する場があって、寺子屋

の神社版で、大人も参加できるものをつくらうと『社子屋』という名前をつけさせてもらいました。最初は社務所を学びの場としたので『社小屋』と考えていましたが、子どもであれ大人であれ、みんな子どもとしての立ち位置、すなわち教えられる側という思いをこめて『社子屋』としました」

できる限り参加のハードルを低くしようと、年齢制限は設けず、申し込みや参加費は不要。遅参・早退も可能としている。

古事記の朗読やDVD鑑賞、江戸木目込人形やつまみ細工といった伝統工芸体験、僧侶を招いての座禅体験や暗闇ご飯体験など、プログラムは多岐にわたる。「社子屋を継続していくために、季節毎に固定プログラムを設けるなど運営が苦にならない方法を選んでいきます。広報も、神社の掲示板でのポスター掲示とSNSを利用した告知のみ。講師は社子屋の趣旨に賛同し、



浅草神社の矢野幸士禰宜

無償で引き受けてくださる方にお願ひしています。活動に興味を持った参加者がボランティアとして企画・運営をサポートしている。

地域コミュニティの核として 神社が果たす役割

第1回目は浅草神社の由緒に関する講義を行い、十数名の参加者が集まった。以後、口コミによって参加者の人数は着実に増え、現在では毎回平均して60人前後が集う。そのうち3分の1が新規参加者で、氏子地域以外から訪れる人も多い。プログラムの内容に関係なく、社子屋で知り合った人との再会を楽しみに訪れる人もおり、体験活動においては子どもと大人が協力し、譲り合う姿も見られる。

社子屋を始めて5年が経過し、神社と地域との結びつきが形成されつつあることを実感しているという。「社で会う」と書いて「社会」。古くから神社は地域コミュニティの核であった。「大阪の道明寺天満宮さんでは『宮子屋』という名称で、東京の上目黒氷川神社さんは『社子屋』で、私が知る限り5社こういった活動が他の神社さんでも行われる



道明寺天満宮の南坊城宮司が講師をした、社子屋の埴輪制作教室の様子

ようになりました。こうした活動が全国に広がってほしいと矢野禰宜は願う。「規模は小さくても良い。地域の方に神社に足を運んでもらえるよう、それぞれの神社ができることに取り組みんでもらいたい。『点』ではなく『面』として神社界が盛り上がり、いければと考えています」

社子屋やお寺にお参りしていただく機会を増やそうと、矢野禰宜が新たに作り組んでいるのが、残り半年の始まりである7月1日の「夏詣」。日本の新しい習慣を作ろうと2014（平成26）年に始め、最初は浅草神社1社だけだったが、2017（平成29）年は全国で神社50社、寺院4寺が参加するようになった。こちらの活動にも今後注目していきたい。

西日本 道明寺天満宮

「宮子屋」

地域も巻き込んで 学びの場を提供

学問の神様である菅原道真公を祀る道明寺天満宮では、3年ほど前から地域と密着した形で学びの場を提供する、座学とワークショップを兼ねた「宮子屋」を行っている。南坊城光興宮司は「ここはお寺ではなく天満宮です。寺子屋ではなく『宮子屋』と名づけました。当初は自社だけでやっていたが、地域も一緒に巻き込んで発展していかなければならぬと考え、現在は、藤井寺市内のまちづくり協議会の一つである『まなリンク協議会』(http://manalink.red/)と協力し、年4回開催しています。テーマも季節や時期に合わせて子どもから大人まで楽しめるように心がけています」と語る。



道明寺天満宮の南坊城光興宮司



宮子屋の「土師氏のお話と埴輪づくり」の様子

「宮子屋」ではこれまで、正式参拝とお守りづくり、母の日に因んで暦のお話とリース作り、お香の薫りを当てる楽しみや香道あそび、地元チョーヤ梅酒株式会社とコラボの梅のお話と梅酒づくりなど、幅広いテーマを座学として取り上げながら、そこに関連したワークショップを行う体験型となっており、地域住民に好評だ。この夏には、3回目になる神社由来の埴輪づくりが行われた。境内には、947（天曆元）年に天満宮が創建されるまで本社であった、土師氏の氏神としての土師社が祀られている。「ここは埴輪を作ることで発展した土地ですから、土師という名前もここからの由来なんです。菅原道真公も土師の子孫にあたります。私は、埴輪による町づくりも提唱しています。各

家に埴輪が置いてあり団結した地域なんだという話ができれば素晴らしいですね」
道明寺天満宮が行っている「宮子屋」のような活動は全国でも珍しい。「地域に密着してこそ神社なのだから、このノウハウを全国に広げ地域活性化に役立てていきたい。続けていくことが大切。先祖から受け継いだものを子孫に伝えていく役割もそこにあるんです」と語ってくれた。

「社子屋」「宮子屋」の活動に興味・関心のある方は、左記の各神社へお問い合わせください。



道明寺天満宮

〒583-0012
大阪府藤井寺市道明寺1-16-40
TEL.072-953-2525
http://www.domyojitenmangu.com/



浅草神社

〒111-0032
東京都台東区浅草2-3-1
TEL.03-3844-1575
http://www.asakusajinja.jp/

あふれるエネルギーと空間の広がり 世界から絶賛を浴びる新境地の仏画

～仏教美術を世界に向けて～

多くの人が想像する仏画とは、掛け軸に描かれた優美な菩薩像や観音像、というイメージではないか。今回、インタビュアーを受けて頂いた慧善玄潭さんの作品から受ける印象は、溢れんばかりのエネルギーだ。日本の総理大臣賞、ゴルバチョフ賞、イタリヤ最高芸術勲章などという形でいまや世界各地から賞賛されている。

軍隊での経験を通じて 釈迦の教えに導かれる

慧善さんは1958(昭和33)年に韓国で生まれた。大学生となった時、大統領暗殺から軍部のクーデターが発生。「僕はそれほど深く民主運動に参加してはいたわけではないですが、仲間はほとんど捕まってしまう。僕は運がよく、友人の父が助け舟を出してくれました。その方の働きかけによって軍隊に入ることになり、結果として逮捕を免れました」

最初の転機はこの軍務にあった。そこでの辛い日々が、新たな道筋を示すこととなった。「軍にいた3年間は、毎日が戦争のための訓練。自分が殺されるよりも先に相手を殺さなければならぬ。その日々のなかで僕はこれからの人生について色んなことを

考えていました。そして、人の一生は誰かを殺すためにあるものではない。みんなが平和に生きるために存在しているのだというお釈迦様の教え、つまり仏教の教えに行き当たったのです。軍務を終えたらすぐに出家しました。韓国でのお坊さんといえば、完全な出家で、結婚もせずひたすら修行で生きていくことになりました。慧善さんもそのような修行に明け暮れていたが、縁があつて日本に行くことになった。そこで日本の僧の在り方に驚くことになる。

「日本のお坊さんは、韓国と比べて自由にいろんなことができる。ここでなら僕もいろいろできる、と考えました。僕は韓国で修行に子供のため禅画を描いていました。ですから、日本語が上手くないこともありましたが、絵で表現して仏教の世界を人に伝えようと考えたのです」

日本の仏画や仏像に衝撃 自ら踏み入って海外へ進出

さらに日本の仏画や仏像に衝撃を与えられることになる。「日本の仏画や仏像を実際にこの目で見たら、これはもう本当に美しいなと。日本だけが持っているこの仏画や仏像の美しさは、まさに慈悲心によるものだと感じ

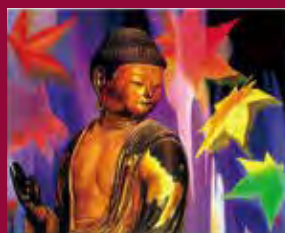
ました。これを見た瞬間、私は日本における仏画や仏像の世界に自ら踏み入って、自分の力で全世界に広めていきたいと思いつたのです」

この思いを胸に作品を作り上げてきた慧善さんは、一般的なギャラリーで作品展示せず、さまざまな寺社で作品を公開。音楽とのコラボレーションによるイベントを行ったこともある。さらにフランス、イタリヤ、ドイツ、スペイン、ギリシャ、ロシア、トルコ、中国、韓国、タイなど世界各地でも作品を展示している。そこで、あらためて日本の仏画、仏像が大変な感動を持って受け入れられることを実感した。

「奈良の法隆寺にある百済観音は8頭身でスタイルが美しい。これはヨーロッパのビーナスよりも美しいと思います。東大寺の金剛力士の細かい血管などは、石文化の西洋では表現出来ない。そういうこともあり、フランスのルーブル美術館で作品展示した時も、大変多くの方に集まっていた良かったです。日本人は仏像の美しさに慣れてしまっているかもしれないですが、ヨーロッパ人にとっては、斬新な美しさなのです」。

モチーフの問題だけではない。慧善さんの画風として背景に壮大な景色を描くことが多いが、

〈慧善玄潭さんの作品〉
写真では表現できない
世界観を生み出す油彩画





その空間の広がりも感じられる。仏の世界を描いているせいか、絵を見ながら般若心経を唱える方や、一枚一枚絵の前で手を合わせる方、毎日来て絵の前で泣く方もいるという。「僕の絵を見て病

気が治った、という方まで出てきました。本当にうれしかったのですが、やはり皆さん普段から仏画に触れる時間があまりないのだろうと思いました。特に子供たちが、仏に対して、行つて

きます。と手を合わせる時間を作ってくれたらうれしい。手を合わせる行為は自分の行いを反省するチャンス。その後の生き方自体がまったく変わってくるのです」

海外で高い評価 仏画の慈悲心を欧州へ

慧善さんの作品は、2015（平成27）年にフランスのオルセー美術館における世界遺産作家に認定され、さらにイタリアでは最高芸術勲章を授与された。一番の軸は、日本の仏画の慈悲心というものの表現を、ヨーロッパに教えていきたいということ。今後は、あらためて日本での活動にしっかりと軸足を置いていく予定のようだ。

プロフィール 慧善 玄潭

1958（昭和33）年韓国生まれ。日本国籍。人生の無常を感じて、1980（昭和55）年禅宗に出家得度。1988（昭和63）年来日。1992（平成4）年大阪に海東院を開設。1993（平成5）年～1999（平成11）年、6年かけて西界曼荼羅を完成。1993（平成5）年西山浄土宗にて得度、浄土教学を学ぶ。2004（平成16）年世界で初めて石版による「観経曼荼羅」を完成。現在、仏教美術を研究。2005（平成17）年～2007（平成19）年、3年かけて「釈迦の生涯一代記壁画」16面を制作完成。



宿坊「和空 下寺町」に飾られている『千手観音』。千手観音の、さまざまな人々を助ける姿を優美に描いた作品



三蔵法師・求道の道

油彩 Oil on Canvas 179 × 93cm

和紙に刷られた愛らしいイラストが人気！ 手刷りのコバコ（小箱）

今、手触りの優しい和紙にオリジナルのイラストを手刷りで描いた小箱の授与品が外国人観光客の間で話題となっている。小箱の使い方もさまざまで、それぞれの寺社の魅力をアピールすれば、そこでしか手に入らないオリジナルの授与品として、多くの参拝者に喜ばれるはずだ。

小ロットも可能なオリジナルcovacoで 寺社の魅力をアピール

創建 1090(寛治 4)年、格式高い門跡寺院として知られる京都の聖護院。その名刹のオリジナル授与品で、和紙に山伏のイラストがデザインされた小さい箱に抹茶飴の入った記念品が話題となっている。これを手掛けたのは、1982(明治 25)年創業の京都の老舗菓子処青木光悦堂（京都市山科区大宅御所田町 30-3 TEL.075-592-8773 <http://aokikouetudou.com/>）。食べて和んで、見て和んで、ほっこりとした手作りの風合いが魅力の covaco の箱は、京都の職人さんが和紙に手刷りという昔ながらの手法を用いて手作りしている。covaco にはさまざまな絵柄があり、箱の中の飴も全 10 種の中から自由に組み合わせることができる。青木光悦堂では自社商品として販売しているほか、オリジナル covaco の制作も受注。制作は 200 個（箱・飴）と小ロットから可能で、デザイン作成から納品まで約 2 ヶ月とのこと。



covacoの絵柄。聖護院をはじめ多くの寺社で採り入れられている。

「毘沙門不動 ご祈願ろうそく」を お不動さんの絵の小箱に入れて提供

大阪府高槻市の神峯山寺（<http://kabusan.or.jp>）では、化城院護摩堂にて厄除けと祈願のため毎日欠かさず護摩を焚く護摩行「毘沙門不動護摩」が、自宅でも気軽に行えるようにと、「毘沙門不動ご祈願ろうそく」を提供している。

化城院のお不動さんがデザインされた手刷りの和紙の小箱の中には、職人さんが心をこめて手作りしたやさしい白檀の香りのろうそくが三つ収まる。ろうそくは、お願いの内容により色分けされていて 10 色展開（子宝子授…オレンジ、無病息災…ミズイロ、開運招福…キイロなど）。参拝者は 10 色の中から自分の願いに合わせて選んだろうそく三つ、ろうそくを乗せるためのお皿、説明書のセットを購入できる。購入者が、毘沙門不動護摩で祈願されたろうそくに毎日少しの時間でも火を灯し、やさしい炎のゆらめきを眺めながら、心静かな祈りの時間を設けられればとの願いが込められている。



お不動さんのご縁（円）を意味する丸い形の毘沙門不動ご祈願ろうそく



週刊仏教タイムス編集長

工藤 信人

1963（昭和38）年秋田県生まれ。東洋大学卒。1988（昭和63）年仏教タイムス社入社。2001（平成13）年に編集長代理、翌年、取締役編集長に就任。最近の関心分野は、諸宗教協力による平和構築、エンゲージドブディズム（社会参加仏教）、寺院の教化スタイル、お酒に合う肴探し。

仏教が世界へ打って出る 今が機会かも知れません



『仏教タイムス』お盆号は毎年一般向けに発行。今年の1面はゲージツ家の篠原勝之さんのインタビュー。昨年は女優の樹木希林さん

各種の出版物。『震災と仏教界』は震災の翌年2012（平成24）年3月11日発行。新聞記事のダイジェスト版

敗戦、焼け野原の広島から 仏教による世界平和を願って創刊

原爆投下からおよそ1年後の1946（昭和21）年7月、被爆地ヒロシマで呱呱の声をあげた小さな新聞がある。焦土と化し、敗戦の疲弊が色濃く漂っていた。「広島は仏教王国である。敗戦はこの広島市街に投げられた原子爆弾から発生した。一躍世界に有名になった広島から、新世紀の創生が打ち出されても不思議でない」との発刊の辞が勇ましい。小さな新聞、仏教タイムスは昨年創刊70周年を迎えた。「本願寺派僧侶の常光浩然（1891～1973）は、戦争中に広島県三次市の自坊に疎開し、そこで原爆の閃光を見たのです。その体験が、仏教による日本復興と世界平和を願って創刊された仏教タイムスとなったのです」

1950（昭和25）年、友人である真宗僧侶の中山理々（1895～1981）の強い勧めがあつて東京に拠点を移した。2年後に開かれる世界仏教徒会議日本大会を遂行するためだった。東京の寺院の協力もあり、紙面は拡充していった。「戦前からのネットワークもあつてヒト（支援者）、モノ（取材ネタ）には恵まれていました。ただカネ（資金）は別で、先人たちは頭を悩ませたようです。いまもさほど変わっていません」

今日では諸宗教協力が普通に見られるが、仏教タイムスは早くから紙面化し、その取材姿勢は引きつがれている。近年では環境問題にも力を注いでいる。「エシカル消費（倫理的消費）を推進する山本良一先生（東京大学名誉教授）は宗教に期待を寄せております。科学技術だけでは地球温暖化は抑止できない、倫理的な抑制によって持続可能な世界を促進させるには宗教に期待するしかない、と。山本先生に啓発的な原稿を何度かいただきました。仏教だけでなく神道もそうした役割を担っていると思うのです。共生を主張する宗教界こそが率先垂範すべきでしょう」

一方で、パワースポットや御朱印などで若い世代の寺社参詣が目立ってきた。しかし、寺離れ、お墓離れが起きているのも事実だ。「地方寺院では、“葬儀1回、檀家1軒減”という現象、都市では葬儀や法事の簡略化や縮小が起きている。確かに厳しい状況にありますが、仏教伝来から1500年。今後も形を変えながら仏教は生き残るでしょう。日本は人口減社会ですが、世界は人口増加が続いています。世界に打って出る機会かも知れません」

株式会社 佛教タイムス社

【代表取締役社長 山崎龍明（本願寺派僧侶）】
〒162-0843 東京都新宿区市谷町2-7 東ビル6F
TEL: 03-3269-6701 <http://www.bukkyo-times.co.jp/>

増加する海外からの旅行者を スムーズに受け入れていくために

訪日外国人と

受入側事業者の双方に 安心・安全を提供

編集部 近年、海外から日本を訪れる旅行者の数が大きく伸びています。こうした状況での東京海上日動様の取組みを教えてください。

堀常務 海外からの訪日客数は2011(平成23)年から年々増え続けており、2016(平成28)年時点では2400万人に到達し、今後更に拡大していくことが見込まれています。一方で、受入れ側となる全国各地の自治体や事業者にとっては、「多言語対応」「異文化や多様な宗教への対応」「渡航者の医療に係る

態勢整備」など、海外からの旅行者受入のための環境整備が大きな課題となっています。

弊社では、訪日外国人と受入れ側の事業者の皆様の双方に安心・安全を提供することを通じて、観光立国の実現に向けた国の取組みをサポートしていきたいとの思いから、「インバウンドビジネス支援サービス」と「訪日外国人向け海外旅行保険」の商品・サービスを開発し、ご契約者への提供を開始しました。

「インバウンドビジネス支援サービス」は、対象保険契約のご契約者である事業者に対して、多言語対応の無料電話通訳サービスなどを提供するものです。例えば、日本独特の「お通し」費用の請求を巡って、海外からのお客様と飲食店がトラブルとなったケースで、本サービスによって旅行者の方に「お通し」の仕組みをご説明し、ご納得いただいた活用例があります。「訪日外国人向け海外旅行保険」は、海外からの旅行者のケガや病気に備える保険として、海外からの旅行者の方が、日本



東京海上日動火災保険株式会社
常務執行役員 堀 真

国内の病院等の窓口で治療実費をご負担いただくことなく受診できるキャッシュレスサービスを提供しています。

寺社の活性化を通じた 地方創生への取り組み

編集部 私どもも寺社を観光資源として活用し、海外からの旅行者にアピールしていきたいという思いがあります。海外の方に日本文化を理解してもらおう場として寺社はとてもふさわしいと思うのですが、堀常務は寺社についてどのように考えておられますか。

堀常務 私は、寺社は日本文化の象徴の一つであり、観光資源としても大変魅力的なものと感じています。日本全国津々浦々にある寺社は、外国からの旅行者にとっても、「その土地



東京海上日動火災保険(株)の 地方創生の取組み

弊社は、「東京海上グループ・ソリューションを活用した地方創生取組みへの貢献を通じ、事業の拡大を図るとともに、地方とともに成長すること」を取組み方針に掲げて、2016(平成28)年7月に専門組織である「地方創生室」を立ち上げました。弊社の国内損保事業の3分の2は地方からの保険料となっており、地方が元気になることが結果として弊社の成長にもつながるという考えの下、商品部門や営業統括部門などの本社内各部署からの兼務者に、全国各地の営業店に所属する約120名の地方創生推進役を加えた総勢約150名体制で、全社をあげて地方創生の取組みを進めております。

これまでに、36の自治体と11の金融機関との間で地方創生に関する協定を締結し、インバウンド対応・BCP策定・中小企業の海外展開などの支援を実施しておりますが、中でもインバウンド対応支援は取組みの柱の一つとして、訪日外国人の受入れ態勢の強化に役立つセミナーの実施や、各種サービス・ツールの提供を行っております。

昨年度、地域における観光資源の示唆を得ることを目的として、訪日外国人のSNSにおけるつぶやきの分析を実施いたしましたが、日本の寺社に対する訪日観光客の評価は極めて高く、寺社の観光資源としての可能性を改めて実感しております。弊社は、全国各地の弊社代理店とともに、全国の寺社の皆様をはじめとする各地域の皆様との連携を強固にしていくことで、各地の地方創生の取組みへさらに貢献してまいります。



営業企画部 地方創生室
室長 磯田 賢

に根付いた文化」や「季節ごとに異なる風景」等、日本らしさを体感できる貴重な場所であると思います。信仰の場所であるという本来の意義を損なうことなく、観光資源として活用していくことが大前提となりますが、寺社の魅力を海外に積極的に発信していくことによって、さらに多くの海外からの旅行者を日本に引き付けることができるのではないかと考えます。

掘常务 民泊は、シェアリング・エコノミーの中で生まれた新しい宿泊形態であり、日本では、法整備や各種のルール作りが現在進行中ですが、弊社としては、社会のニーズの変化とそれに伴う規制緩和の趨勢を踏まえながら、ルールに沿った形で運営される民泊について安心と安全の面でご支援してまいりたいと考えております。昨今、海外からの旅行者は、単に観光目的で寺社を訪れるだけではなく、座禅や宿坊での宿泊といった寺社での体験を求めて訪れるケースが多くなっていると伺っております。安心して旅行者を宿坊に受入れることができ、また旅行者が安全に宿坊を体験いただけるように、保険の商品やサ-

上げ、専任者を置いてさまざまな取組みを行っております。日本全国津々浦々にある寺社の活性化は、私共の地方創生の取組みに通じるものであり、寺社が観光資源としてもっと活用されていくことを大いに期待しております。

ビスの提供を通じて、寺社での民泊事業の進展に貢献していきたいと考えています。

お問い合わせ先

東京海上日動火災保険株式会社

〒100-8050

東京都千代田区丸の内1-2-1

TEL : 03-3212-6211(大代表)

<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

自分と向き合う

『暗闇ごはん』

浄土真宗東本願寺派 青江 覚峰
 緑泉寺住職

「食を通して自分と向き合う
 『暗闇ごはん』から得るもの

料理僧として多方面で活躍する緑泉寺の住職 青江覚峰さん。女性を中心に人気の通販会社フェリシモからレシピ集を出したり、多くのメディアにもひっぱりだこだ。そんな青江さんが同寺で毎月開催しているイベントに『暗闇ごはん』がある。『暗闇ごはん』とはアイマスクで目を覆い視覚を遮った状態で食事をすることで、食を通して自分と向き合うための取り組みだ。主催者である青江さんに『暗闇ごはん』

を開催する真意やそれを通して伝えたいことなどを伺った。

「『暗闇ごはん』はそもそもスイスで始まった『ブラインドレストラン』という試みが原型です。現代人は何かと慌ただしく生活しています。あらためて目の前にある食事を意識し、食べること、つまりは命を繋ぐことを意識できるきっかけになれば良いなと11年前に始めました」

テーマは食を通して 仏教の教えを伝えること

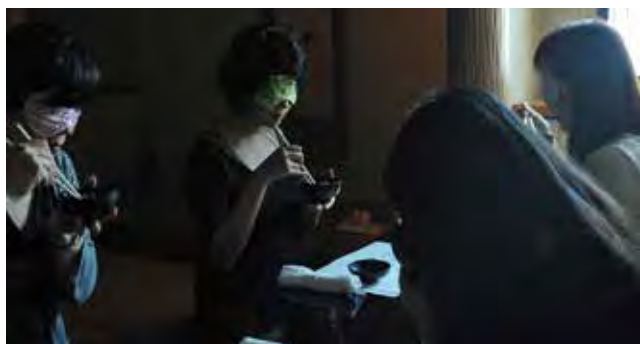
『暗闇ごはん』でよく出されるメニューに無色透明なトマトのスープと、茄子をヘタも含む三つの部位に切り分けそれぞれ違った味付けで出される揚げ浸しがある。無色透明なトマトのスープは、アイマスクをして食した際にこのスープがトマトだと分かる人の正解率が9割近かったのに対し、通常の状態では味わった場合は、約6割だそう。また茄子の揚げ浸しはヘタでも美味しいとの驚きの声がある。視界をオフにすることで香りや味が際立つだけでなく、たとえばトマトは赤いもの、茄子のヘタは捨てるもの、という先入観がどれ



透明なトマトのスープ
 湯むきしたトマトをさらして作るスープ

ほど他の感覚を鈍らせるのが分かる仕組みになっている。

「毎回食事の前にアイマスクをした状態で目の前の人とじゃんけんをし、どちらが勝ったかを互いの手で触れて確認する暗闇じゃんけんを行うのですが、これも『暗闇ごはん』の重要な要素です。人間は第一印象で相手を判断してしまいがちですが、目隠しの状態でスキンシップをとることで二気に距離が近くなる。暗闇の中では自分は一人ぼっちですが、手を伸ばし触れ合うことで他者の存在を感じ、安心感が生まれ、次に目の前に出される料理が共通点となり、自分だけだった世界が広がりを見せていく。つまり、『暗闇ごはん』は単に食と向き合うだけでなく、自分以外の存在への気づきを得るということも目的の一つとされている。私が料理を作るのが好きというのがありますが、ものを食



緑泉寺で行われた『暗闇ごはん』の様子





アイマスクをつけての食事は一見奇抜だが、その真意には自分を見つめ他者の存在を肯定する仏の教えが根付いている。この取り組みを成功させる秘訣について青江さんはこう語る。

「最初は面白そうだという興味本位で参加しても、帰りには仏教について深く知りたいと感じてもらおうことを心掛けています。『暗闇ごはん』に参加したことで新たな気づきや視点を得

べるといのはどんな人にも共通した行動であるため、誰もがより共感できる方法だから。食を通して仏教の教えを伝えること、これがテーマです」

『暗闇ごはん』を誰でもできるように

『暗闇ごはん』に関するお問い合わせ先
株式会社なか道
〒111-0035
東京都台東区西浅草1-8-5
<http://nakamichi.world/>



プロフィール 青江 覚峰
東京都台東区出身。浄土真宗東本願寺派緑泉寺住職。幼少期から得意だった料理の腕を活かし、料理僧として食育に取り組む。『お寺ごはん』(2012年)、『ほとけごはん』(2014年)など料理に関する著書も出している。株式会社なか道代表取締役。

てもらえると嬉しいですね。最近では企業の研修などで『暗闇ごはん』を行うことも多いですね。現在は『暗闇ごはん』を誰もができるような方法を模索中で、僕がその場にいらなくても、こういったワークショップが開催できる雛形を考えています」

この『暗闇ごはん』がどう発展していくのか、青江さんの今後の活動が楽しみです。

大阪初

こんなイベントもおこなわれました!

『おてらの癒し暗闇ごはん』

今夏テレビドラマ化された青江さん監修の料理漫画『サチのお寺ごはん』と『暗闇ごはん』のコラボ企画が開催されました。今回のテーマは「先入観」。

参加者には女性が多く、また大阪では初となる開催のため、名古屋や岐阜など遠方からの参加者もおられるなど、大盛況のワークショップとなりました。



『おてらの癒し暗闇ごはん』当日のメニュー

参加者の声をご紹介します

目隠しをして食べてみると今までどれほど視覚に頼っていたかを痛感しました。また、ひとつひとつの動作に集中するという体験ができました。



井町梨乃さん (大阪府)

視覚を遮ると味に対して敏感になることを体感でき楽しかったです。



右/田中菜穂子さん (岐阜県)
左/上村靖子さん (愛知県)

ご住職のお話も興味深く、改めて食べることが貴重なことだと感じるきっかけとなりました。



ワークショップの様子

和空 下寺町
地域貢献レポート

今年4月にオープンした宿坊・和空 下寺町では、外国人宿泊者の日本文化体験や、地域の国際交流イベントなどの開催を通じて、地域とのかかわりを積極的に展開しています。



「あべの・上本町シャトルバス松屋町筋ルート」開通記念
外国人留学生の日本文化体験イベント

7月3日、外国人留学生を招いて写経や茶道など日本文化を体験するイベントが実施されました。これは新たに運行開始した「あべの・上本町シャトルバス松屋町筋ルート」が和空 下寺町のそばを通ることになったのを記念して実施したものです。このバスは「大阪上本町」駅から松屋町筋を經由、「大阪阿

部野橋駅」までを1日7本運行します。この日、和空 下寺町前午後1時12分着のバスに外国人留学生10名、西山忠邦天王寺区長が到着。和空 下寺町でオープニングセレモニーを行い、その後留学生たちがさまざまな日本文化を体験しました。



寺社にお役立ち 環境改善技術

広い空間の建物、長い年月を経過した木材など、寺社の建造物は特有の問題を抱えています。
それらを改善する最新の技術をご紹介します。

空調効率化

常識が変わる！ 年中健康な快適空間！ 天井と床との温度差を省エネ解消!!



ストーブ・エアコンの困ったを解消！

新発想の室内空気対流循環装置『空間くん』。室内空気を攪拌する機器といえば、天井に設置するシーリングファンやサーキュレーターなどだが、『空間くん』は、天井面と床面の温度差を対流循環することで室内空間のバリアフリー化に成功した。

通常室温は天井に暖かい空気が上がり、床に冷たい空気が溜まる。時には10℃の温度差がつく。また床面から1メートルくらいは『空気の壁』すなわち大きな空気抵抗があり、そのため冬期は暖房機器を使用しても熱源が床面まで届かず、足元は冷たく頭部が暖かくて不快になる。

しかし『空間くん』は、天井に溜まる暖かい無駄な熱源を無抵抗状態で床面へ対流循環させるため、部屋全体の温度差を解消する。さらに、無駄な熱源を有効活用することで、従来の空調機器の設定温度を約3℃上げ下げしても体感温度はほぼ変わらず、空調費を約3割削減できる。

寺社が行事で利用するような広い空間で考えると、かなりの省エネと快適性が得られるすぐれ物と言える。



天井熱・対流循環空調システム
『空間くん』(自社特許品)

【商品概要】

サイズ：幅210mm×高さ1385mm×奥行225mm

重量：約13.5kg 電気代：0.4円/時*

※公益社団法人全国家庭電気製品公正取引協議会による
電力料金目安単価に基づく

<製造元>
株式会社シンワサービス

<お問い合わせ先>
株式会社オンタイム
TEL：06-6282-9327
e-mail:info@ontime.co.jp

防虫・ 防シロアリ

農薬系殺虫成分を含まない “安全+持続”の次世代木材保存剤



エコポロン

『エコポロン』は、今までの殺虫成分（農薬）が揮発する防蟻防腐剤とは異なり、揮発しない無機物「ボウ酸塩」を採用し、木材に浸透して害虫や菌から劣化を守るので、空気を一切汚さずシックハウスの心配もない。居住者はもちろん、施工者も安心して利用することができる。

持続性にも優れており、雨が当たらない環境で長期にわたる予防効果を発揮。そのため、これまでの防蟻防腐剤で必要だった5年ごとの再処理も不要で経済的だ。木造住宅のほか、熊本城や大山寂光院など全国各地の文化財保存処理にも採用されている。この『エコポロン』は、日本で始めて公益社団法人 日本木材保存協会の「優良木材保存剤」の認定を受けている。

エコポロンと農薬系の違い

■ エコポロン

- ① 分解されない無機物
- ② 効果が5年を超えて持続
- ③ シロアリの食害を抑える
- ④ 不揮発性で空気を汚さない
- ⑤ 予防に最適

■ 一般的な農薬系薬剤

- ① 分解される有機化合物
- ② 効果が最大5年と短い
- ③ シロアリを積極的に殺虫
- ④ 揮発性でシックハウスの危険
- ⑤ 駆除には適するが…



『エコポロン』施工の様子

エコポロンPRO

公益社団法人
日本木材保存協会認定 A-5430

<問い合わせ先>
株式会社エコパウダー
TEL : 048-928-1671
<http://ecopowder.com/>

木材表面 処理技術

粉末のおがくずをエアで吹きつけ木材表面の汚れ、 付着物、劣化層を取り除く乾式新工法

施工前と施工後



<施工前>



<施工後>

株式会社グランドライン開発の新技術『エアー鉋工法』は、おがくずをさらに細かく粉末状にしたものを、エアで対象物に吹き当て、その劣化層や付着物を除去する乾式の特許工法である。

この新技術により寺社などの歴史の木造建築物の美観改善や修復・維持にかかる費用の大幅削減が可能となった。

同社はこの『エアー鉋工法』をはじめ木材保存学にのっとった木材保存処理工法、石材洗浄工法、金箔洗浄の特殊工法などを総合させて「常若施工」というオリジナルジャンルを確立させ、重要文化財にも採用されている。

常若施工『エアー鉋工法』(特許第6206898号)

<問い合わせ先>
株式会社グランドライン
TEL : 077-564-8515 <http://grandline.works>



(右)麻布著色盃蘭盆曼荼羅の全体
(右下)上段部分
(上)中段から下段にかけて



朝鮮渡来の曼荼羅図 あさぬのちやくしよくうらぼんまんだら 麻布著色盃蘭盆曼荼羅



じょうどしゅう へんじょうさん こうみょうじ
浄土宗 遍照山 光明寺

〒673-0884
兵庫県明石市鍛冶屋町5-20
TEL.078-911-3928

JR明石駅から、大通りを海に向かうこと約300m。錦江橋のたもとに、ひとときわ風格ある門を構える光明寺。鎌倉末期、真誉上人によって現在の三木市に建立され、1619(元和5)年の明石城築城時に今の地に移ったとされている。

そんな同寺が所蔵しているのが「麻布著色盃蘭盆曼荼羅」。朝鮮からの渡来品であり、仏、菩薩のためさまざまな供養物を壇上に献じ、拝礼する人々の姿が描かれている。地布は太細が顕著な麻糸で織った大小四片の麻布を複雑に寄せて縫合され、大幅に応じている。三段で構成された壮大な世界観が観る者を惹きつける。1984(昭和59)年に兵庫県の指定文化財に指定された。

「専門家から、非常に美術的価値の高い作品であるとお聞きしています。お盆の間は本堂の壁に掛け、訪れた方々に鑑賞していただいているんですよ」と、19代目住職の山口芳典さん。二体いつ、どのような経緯で当寺にもたらされたのが判然としない。そんなミステリアスな部分も、私は気に入っているんです。これからも同寺の貴重な宝物として、人々を魅力し続けることだろう。

地域との絆を具現する明石市指定文化財

能舞台



(上) 拝殿から見た能舞台。能舞台のすぐ後ろに見えるのが楼門。さらにその奥には神門、鳥居があり、海を見通すことができる

(下) 毎年5月に奉納能楽会が開催される



明石市魚住町中尾鎮座

すみよしじんじや
住吉神社

〒674-0082

兵庫県明石市魚住町中尾1031

TEL.078-946-0417

<https://www.sumiyoshijinjya.com/>

神功皇后が三韓征伐の際、播磨灘で起こった暴風雨が鎮まるよう住吉大神に祈願したことから464年に建立された住吉神社。この神社の特徴は、本殿、拝殿から能舞台、楼門、神門、鳥居が一直線に並んで建てられていること。訪れる人は、拝殿から建物越しに見る紺碧の播磨灘に心を奪われることになる。これは東播磨の典型的様式だが、この形が現存しているのは大変珍しい。特に能舞台は、明石市ではここにしか残っていない。1627(寛永4)年に初代明石藩主の小笠原忠政によって寄進されたもので、入母屋造りの屋根が美しい。ただ舞台背景となる鏡板がない。禰宜の西海庸就さんによれば「ここは航海の神様ですので、本殿から海に向けて一直線に見えることが大切。よってお能が行われぬ時は、海への視界を遮る鏡板を外しています」

この能舞台では、境内にある樹齢150年の藤棚も見頃となる毎年5月に、地域の人々によって奉納能楽会が開催されている。西海禰宜は語る。「子供たちの上演もあり、伝統文化を次世代に引き継ぐため、そして地域と神社を結びつけるための接点としての役割を果たしています」



1

風まかせ 16

野田博明



2



3



4



5

糺の森にひそむ三柱鳥居の謎

鴨脚と書いてイチヨウと訓む。その家名の謂れは第12代景行天皇がこの地に逗留した際に詠まれた鴨一族繁栄を言祝ぐ歌に因むのだという。そんなやんごとなき鴨脚家は京都の下鴨に広がる糺の森の南端にある。その庭に不思議な伝承をもつ深さ4mほどの組石造りのすり鉢状の泉がある。「庭の池の水は鴨川の水と御所の井戸につながっている」との言伝えを裏づけるかのように池の水位は鴨川や御所にある百余の井戸の水位とほぼ同じになるというのである。その興味深い話は螺旋状に敷石を下る池の構造とともに数年前、NHKスペシャルで放映された。

鴨脚家は代々、下鴨神社の神官を努めてきた。同時に朝廷において神事用の水や井戸水などを管理する主水部でもあった。もむぎとは古語で飲み水を意味する。科学技術の未発達な時代、飲料水の確保はいうにおよばずその衛生管理は今とは較べようのない重要な政治の役割であった。その専門知識を有する鴨族が跋扈する地が賀茂川と高野川が合流する中州に広がる糺の森であった。清らかな伏流水を豊かに湧出する水の供給基地であり、都の民の命をつなぐ水の聖地であった。

その糺の森から南西に8kmほど離れた太秦の地に木嶋坐天照御魂神社（以下、木嶋神社）の社叢で元糺の森と呼ばれる森がある。木嶋神社の由緒書きは、元始、身を清め糺す禊の場所が木嶋神社の地にあったので、元糺の森と称すのだと記す。聖なる禊の地が嵯峨天皇の御代、記は申さぬが木嶋神社から下鴨神社へと遷されたといっているのである。そこで、細かいことが気になる筆者はその背景を薬子の乱に象徴される嵯峨天皇と先代の平城天皇との熾烈な権力闘争のなかに求めたのである。太秦一帯を支配する秦氏と賀茂川の中州を支配する鴨氏との間に、今では考えられぬが朝廷に対して強大な力を誇示できる水の管理

権をめぐる抗争があったと。木嶋神社本殿の左手窪地に元糺の池と呼ばれる池がある。この池は階段状に連なる三つの池からなり、各々に堰が設けられ水が溜まるように造られていく。そして、一番下の池の堰からは細流となって流れ出ていく構造となっている。この地が古昔、豊富な水に恵まれた禊の地であったことは、今に伝わる夏の土用丑の日に池に手足を浸す厄除け神事存在がそれを雄弁に語っている。近年、宅地造成や地下鉄開通により水脈が途絶し涸れ池となっているが、神事の折には地下水を汲みあげて池を満たし伝統を繋いでいるという。禊の儀式が変じたその厄除け神事は下鴨神社においても同時期、同様式で催行されている。こちらは、みたらし祭り、別名

「足つけ神事」としてテレビなどでよく目にする有名な夏の風物詩となっている。新旧糺の森に同様の神事が伝わり、「糺す」という禊ぎの文字を有す地が水の聖地であったことは確かである。その元糺の池に石造りの三柱鳥居が建っている。三本の柱が正三角形を作るように立ち、上部に三本の笠木を渡した風変わりな鳥居である。三柱で囲まれた中心には円錐状に石が積まれ、頂に御幣が飾られている。平安の頃、そこから湧き出た水はその量によって段々に下の池へと流れ出し、元糺の森を出るころには川となつて都中を潤していた。

そんな泉に立つ珍妙な三柱鳥居であるが、全国に例は少ない。しかも歴史的由緒を残すものとしては木嶋神社のほか東京の向



6



7



8



9

- 1 左の賀茂川と右の高野川に挟まれた札の森
- 2 木嶋坐天照御魂神社の三柱鳥居
- 3 木嶋神社の元札の池を上から下の水溜りを見る
- 4 三囲神社の三柱鳥居 真ん中に井戸がある
- 5 三囲神社・室井其角の雨乞いの碑
- 6 和多都美神社・境内の汐溜りに立つ三柱鳥居
- 7 和多都美神社の汐溜りに立つ三柱鳥居 海神・磯良の墓が真ん中に鎮座
- 8 志賀海神社の沖津宮が鎮座する沖津島と御手洗の浜
- 9 海上の参道 和多都美神社の明神鳥居

野田博明 (のだ・ひろあき)
 昭和26年生まれ。東大卒。日本興業銀行広報部長などを経て、現在、一般社団法人全日本寺観光連盟理事。平成27年文化庁・官公庁共管の「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」、平成29年文化庁の「文化財の多言語解説等による国際発信力強化の方策に関する有識者会議」の委員。



金刀比羅宮本殿前にて

島の三囲神社と長崎県の対馬にある和多都美神社の二ヶ所があげられるのである。

平安初期の草創と伝えられる三囲神社には石造の三柱鳥居の真ん中に井戸が鎮座する。案内板には「三井邸より移す。原形は京都太秦・木嶋神社にある」と書かれている。水を汲みだす井戸を磐座とするように三本の柱で境界をなす。三井家を守る意味なのだろう三柱で井戸を囲み、三囲という井を囲む名を冠する神社に作られた三柱鳥居。まるで頓智譚のようでもあるが、木嶋神社に原形を求めたことは、ただ井を守る意のみでなくコンコンと清水が湧き出す繁栄を象徴する様をご神体として祀ったと考えるのが妥当である。

ここも水との関係が深い土地であったのである。その傍証と

もういべき話が伝わっている。元禄の頃、大旱魃に見舞われた折、当社で雨乞い祈願をする百姓たちを目にした俳人室井其角が「ゆうだちや田を見めぐりの神ならば」と詠うと、翌日に雨が降ったという。江戸中期に建立されたその雨乞いの句碑は現在も境内に麗々しく置かれている。余談になるがその二百年後のこと、あの勝海舟が「三囲の社に続くひわれ田を神はあわれと見そなわざや」という和歌を奉納していた。なんとその日に雨が降ったのだそう、「おれの歌も、天地を動かし鬼神をなかしむるほどの妙がある。小野小町や室井其角にもけつて負けない」と海舟一流の自慢話が「氷川清話」に披露されている。この程度の歌で雨が降ったとは到底思えぬが、昔から雨乞いや水

に深い関りを持つ神社であったことを印す逸話である。ただ、なぜか知らぬが境内のどこを探しても海舟の歌碑は見当たらない。さて、謎の解明に大きな示唆を与えてくれるのが対馬市豊玉町にある和多都美神社である。創立不詳の古社は竜宮説話の伝説を残す満珠瀬・干珠瀬をもつ真珠の浜を前景として建てている。祭神は竜宮城のお姫様こと豊玉姫と山幸彦こと彦火火出見尊であり、当社の鎮座する町名も海神の姫の名に因んでいることは興味深い。当社は五つある鳥居のうち二つが海中に立つ海

の参道で有名だが、玉砂利が敷かれた陸の参道脇に大きな汐溜りがある。そこに木造の三柱鳥居が建つ。その中心には海神とも海の精霊ともいわれる阿曇磯良の墓がある。その磐座はフジツボだらけの醜い磯良の顔を思わせる鱗状の奇怪な形状をしている。

満潮時には柱の中ほどまで海水が覆い磐座は海中に没し、引き潮とともに徐々に姿をあらわす。それは潮の干満を測る仕掛けのようでもあり、また、月の満ち欠けを測定する機械のようでもあり、古代人の自然に対する向き合い方、神への畏敬をあらわす素朴な信仰心を感じる。旁、黄泉の国から逃れ帰った伊弉諾尊が真つ先に海中に身を沈め穢れを洗い去り、潔斎を済ませたことが想起された。その禊から生まれた海の神、綿津見三神と阿曇磯良を祀る、龍の都と称される志賀海神社が対馬から南下した福岡県の志賀島にある。その沖津宮が島の北部に浮かぶ沖の島に鎮座する。沖の島

に渡る舞能ヶ浜は御手洗という名で古来、呼ばれてきた。そこが海の民が海潮で禊を行なった「お汐井」の浜辺であったことは間違いがない。

こうして三神社に共通するものを探てみると、三柱鳥居が御手洗やお汐井という禊の儀式に深く纏わる原始信仰の徴標であり、さらには水位・潮位の変化、月の盛衰といった自然現象にも肉薄するある種の測定器のようにも思えてくる。韓国語の「パタ(海)」が転訛した氏名をもつ秦氏や海民所縁の地にはあって、利権を奪った鴨氏の地にはないという符牒。柱が三つ、なぜ四つではないのかなど謎は深まるばかりだが、下鴨神社発祥のみならず団子でも食らいながら無

寺社観光の新しい楽しみ方を提案するガイドブックが人気です

京都エリアの寺社を紹介した1冊

知れば知るほど面白い
目からウロコの寺社ガイド

京都寺社案内。



「仏像」「藝術」「建築美」「伝説・伝承」という観点から、京都の寺社の見どころを徹底紹介。洛中最古の名刹にまつわるラブロマンスや、遊び心満点の障壁アート解説、仏像や建築物にまつわる驚きの秘話など、知れば知るほど寺社めぐりが楽しくなる情報が満載です。あわせて立ち寄りたい近隣の最新オススメスポットも充実。京都取材し続けてきたレジャー情報誌編集部ならではの情報力で、知的好奇心いっぱいに寺社を紹介している1冊です。



CONTENTS

京都寺社案内「仏像」「藝術」「建築美」「伝説・伝承」/ 仏像入門 / 神社入門 / 御朱印入門 / お寺で、現代アート。 / フォトジェニックなお守り & おみくじ / 寺社、春夏秋冬めぐり / 京の路お地の楽しみ方 etc.

(びあ株式会社関西支社発行 / 定価680円+税)

「京都寺社案内」を抽選で5名様にプレゼントします！

東海エリアの寺社を紹介した1冊

ようこそ、
神社仏閣ワンダーランドへ！

東海の寺社



人気の寺社から穴場まで、休日にふらりと出かけてみたくなる東海エリアの神社仏閣情報、周辺立ち寄り情報が満載。このエリアは三英傑のお膝元だけあり、数多くの由緒正しい寺社や個性的な寺社が点在。これらバラエティに富んだ寺社が、「庭園」「仏像」「建築」「絶景」「花の名所」といった見どころ別で紹介され、好みに合わせて選べるよう構成されています。“ワンダーランド”ともいえる神社仏閣をめぐって、非日常の癒やし旅が楽しめる1冊です。



CONTENTS

東海の寺社「庭園」「仏像」「建築」「絶景」「花の名所」/ 参道 & 門前町さんぽ / お寺体験 / 御朱印帳セレクション / 色づく寺社「紅葉」「桜」 / 神社の境内案内 / 仏像の見方 / 歳時記 etc.

(びあ株式会社中部支社発行 / 定価880円+税)

「東海の寺社」を抽選で5名様にプレゼントします！

※ハガキに郵便番号、ご住所、お名前、ご希望の本のタイトルをご記入の上、下記宛先までご応募ください。

<宛先>〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-4 アクア堂島東館2F びあ株式会社編集部宛
<応募〆切>2017年11月30日消印有効

寺社のみなさまのご要望にお応えして
広報活動をお手伝いします

プレスリリース(広報用資料)を受け付けしています!

- 特別拝観や催し事(イベント含む)の開催
- 一般の方々に告知したい取り組み
- 他の寺社に告知したい取り組み
- 組織・人事の異動
- 新しい試み・事業
- 宿坊情報の掲載

など、貴寺社の情報を当協会までお送りください。

情報誌・ウェブ版「寺社Now」、
宿坊ポータルサイト「和空」、SNS、
関連ウェブメディアに記事が無償で掲載いたします!

なお、諸事情で掲載ができない場合もございます。あらかじめご了承ください。



http://wa-qoo.com



http://jisya-now.com/

ウェブ10万PV*
Facebook5万いいね!※
雑誌発行部数
3万部で発行!

※グループ合計

プレスリリースの資料や写真を下記までお送りください

※当協会から確認のご連絡をする場合がございますので、ご担当者のお名前、電話番号などの連絡先を必ずご明記願います。



郵便・宅配便で送付

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-13 9F TEL:06-6360-9838



e-mail で送信

info@jisya-kk.jp
※件名にプレスリリースとご明記ください

バックナンバーのご案内

寺社の「いま」を伝える情報誌「寺社Now」は、全国の寺社に無償でお届けしています。



vol.12

- ◆巻頭特集
文化財保護と観光支援における助成金と補助制度
- ◆クローズアップ
法相宗大本山 薬師寺 管主 村上太胤



vol.13

- ◆巻頭特集
MICE 誘致拡大に向けた社寺の取り組み
- ◆インタビュー
河内國一之宮 枚岡神社 宮司 中東弘



vol.14

- ◆特別対談企画
公益財団法人徳川記念財団理事 徳川家広
和宗総本山四天王寺執事 山岡武明
和宗総本山四天王寺 総務部参詣課信徒係主任 瀧藤康教
- ◆編集企画
高齢化社会に向けた社寺のバリアフリーの取り組み



vol.15

- ◆巻頭特集
開かれた寺づくりで信仰、観光、自然の未来をつくる
真言宗御室派 大本山大聖院 吉田正裕座主
- ◆クローズアップ
真宗大谷派 難波別院(南御堂) 宮浦一郎輪番

次号は
1月発行の
予定です。

監修

一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人

一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力

株式会社 関西ぼど

発行所

一般社団法人 全国寺社観光協会
(事務局)
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号
AXIS 南森町ビル 9F
Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

寺社Now

第1巻第16号 平成29年11月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。
本誌の許諾なしに複製(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。

バックナンバーはWEBでもご覧いただけます。

jisya-now.com または

寺社NOW

検索

本誌の記事に関するお問合せは
右記にお寄せください。

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満 1-11-13 9F
TEL: 06-6360-9838 FAX: 06-6360-9848 e-mail: info@jisya-kk.jp

より良い誌面作りのため、寺社の皆様の貴重なご意見をお聞かせください！

寺社Now 誌面アンケート

「寺社Now」ではより良い誌面をつくるために誌面についてのアンケートを実施しております。下記のアンケートの□内には✓を、()内にはご記入をいただき、下記まで本紙をファックスにてお送り願います。

Q1. 所属

寺院 神社

Q2. 今号で面白かった記事はどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

①巻頭インタビュー:地域の伝統文化を守り、コミュニティの中心にあるべき神社の使命を果たすために 神道青年全国協議会 会長 富岡八幡宮 禰宜 佐野巖 ②特集1:寺社における道路標識・看板広告の効果的な設置方法とは ③インタビュー:商工会と寺社との連携により地域のブランド力を強化 全国商工会連合会 専務理事 乾敏一 ④特集2:神社を人の集まる場所に 世代を超えて人々が集う学びの場 浅草神社「社子屋」と道明寺天満宮「宮子屋」の試み ⑤クローズアップ:あふれるエネルギーと空間の拡がり 世界から絶賛を浴びる新境地の仏画 慧善玄潭 ⑥トレンドNow:和紙に刷られた愛らしいイラストが人気! 手刷りのコパコ(小箱) ⑦活性人:仏教が世界へ打って出る今が機会かも知れません「週刊仏教タイムス」編集長 工藤信人 ⑧TOPICS:増加する海外からの旅行者をスムーズに受け入れていくために 東京海上日動火災保険株式会社 ⑨自分と向き合う「暗闇ごはん」 緑泉寺住職 青江覚峰 ⑩寺社にお役立ち環境改善技術 ⑪うちのお宝:光明寺 麻布著色孟蘭盆曼荼羅/住吉神社 能舞台 ⑫野田博明 風まかせ:札の森にひそむ三柱鳥居の謎 ⑬PICK UP:寺社観光の新しい楽しみ方を提案するガイドブックが人気です「京都寺社案内」・「東海の寺社」

Q3. 以下の項目で、寺社の取り組みの事例として知りたいものはどれですか(複数回答可)

観光 外国人対応 宿坊新規開設・運営 寺社イベント 広報 地域振興 結婚式 後継者育成 土地活用
その他 (ご記入ください:)

Q4. 今号の記事、広告を見て実際に問い合わせた、もしくは興味を持った内容があれば教えてください。

広告を見て問い合わせた、あるいは興味を持ったところの会社・団体名:)

Q5. 以下の項目で、知りたい企業サービスはどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

①ホームページ ②SNS運用代行 ③アプリ開発 ④告知ツール制作(掲示物・ダイレクトメール・冊子・チラシなど)
⑤フリーWiFi ⑥自販機設置 ⑦喫煙所設置 ⑧清掃 ⑨老朽化・耐震対策 ⑩警備 ⑪保険 ⑫介護施設
⑬託児所 ⑭土地活用 ⑮資産運用 ⑯税金対策
⑰その他 (ご記入ください:)

Q6. 寺社Nowへのご要望・ご感想など

(ご記入ください:)

寺社Nowのバックナンバーおよび、寺社Nowの継続購読をご希望の場合は、下記の内容をご記入の上(□内✓をお願いします)、FAX送信してください。

<input type="checkbox"/> バックナンバー希望	ご希望のバックナンバーの号数に○をご記入ください ※複数可	<input type="checkbox"/> 継続購読希望
(Vol. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15)		

寺社名	氏名
〒 ご住所	
お電話番号	

< FAX > 06-6360-9848

【個人情報の取り扱いについて】
ご記入いただいた個人情報は寺社Nowや同誌バックナンバーの発送および全国寺社観光協会からのご連絡以外には使用しません。



感動のそばに、いつも。



人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。



挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company
東京海上日動



JOCゴールドパートナー(損害保険)